



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第83号

発行日
令和3年3月1日

◇ 目 次 ◇

P-2: 自主観察会(5)ウォーキング
(包ヶ浦～入浜)

P-6: ミヤジマトンボ生息湿地環境整備

P-7: 臨時総会・会設立20周年記念懇談会

P-10: 弥山登山道清掃作業

P-11: 編集後記

見立山より宮島を望む



見立山の由来：

“ときは戦国の世,中国地方の大半を制圧した毛利氏は,高田郡吉田の郡山城から平城を求めて広島への築城思い立つ。当時の広島はいくつかの島に分かれていた。葦の生い茂る寒村だったと言う。天正 17 年(1589 年)毛利輝元は双葉山,己斐山に登り,どこに築城するか思案したあげくこの山に登り,そして島の中で 1 番広い島「在間」を城の場所と見立て、以後この山は見立山と呼ばれるようになった。“とのことです。※文は案内板転記、場所は広島市牛田旭)

(写真・文： 麻生博史)

自主観察会(5) ウォーキング(包ヶ浦～入浜)

日時： 11月14日(土) 10:00～14:30

場所：『包ヶ浦～入浜ウォーキング』

片道約 3.8 km

天候：晴れ

行事推進員：中道 舛田 山本(昌)

参加者：岩崎 大西 北野 河野 小林(勲)

佐渡 佐藤 末原 兎谷 中道 舛田

村上 森 山本(昌) 横路 以上 15名

新規研修会員：上杉(裕) 上杉(幸) 菊田

福岡 村上 森脇 吉賀 以上 7名

今日は、11月21日(土)に行われる公募観察会の下見です。しかし、コロナ禍のため公募観察会は中止となりました。でも下見まで中止にはなりません。

「健康を目的」としたウォーキング、会員の「自己啓発」及び来年度入会予定研修生の「研修」というそれぞれ目的をもった自主観察会です。

会員 15名・研修生 7名が包ヶ浦管理センター前に集合しました。

爽やかな風を感じる気持ちの良い天気です。

10:00 開会ミーティング



開会あいさつ、会員・研修生の自己紹介から始まりました。

本日のスケジュール、そして体調確認後、全員マスクを着用し、先頭は植物に詳しい山本会員をリーダーに、続いて研修生・会員が発しました。

ゆっくりと植物や鳥など自然観察をしながら進みます。早速、池ではカモの観察。人影を感じ遠くへと泳いでいきます。

少し歩いただけで汗ばむ陽気です。

10:16 樹木の説明 1



10:29 樹木の説明 2



リーダーの説明にメモを取りながら熱心に聞く研修生。

ゆっくり弧を描くトビ、長い尾を縦に揺らすセキレイ...、センニンソウ、シロダモ、カンコノキ、ヒサカキ、サカキ、シキミ、ウリハダカエデ、ハゼノキ、ジャケツイバラ...

形、色、葉のつき方、実、名前の由来などなど、植物の特徴を詳しく、また楽しい説明に驚いたり、感心したり... 皆さん手元の資料を参考に和気あいあいと観察します。

10:32 「カンザブロウノキ」の幼木
ハイノキ科



広島では宮島を中心に瀬戸内の沿岸部に自生しています。変わった名の樹です。漢名は「勘三郎の木」。由来は不明とのことですが、牧野図鑑によると「...カラスかあかあかんざぶろう...」？ また、神々しいという意味の古語「神さぶる(かんさぶる)」「カンザブルノキ」説、伊勢神宮に植えられているとか。
幼木でも葉は大きいですね。

11:14 「ヤマモガシ」 ヤマモガシ科



ホルトノキ科の「モガシ」に似ていることから「山モガシ」。宮島は分布の北限に近い。環境省・広島県 RDB に指定され生育地の森林の保全と幼木の保護が必要です。マカダミアナッツも同じ仲間です。ヤマモガシを食草とする美しい蛾「サツマニシキ」についても説明がありました。11月頃 0.5mm くらいの卵を見ることが出来るそうです。7月頃幼虫を、成虫は8月頃、見てみたいですね。

10:52 「トキワガキ」カキノキ科 常緑樹



鷹ノ巣高砲台入口で中道会員の軽快な説明にほっと一息つきます。
宮島の海岸林に自生。柿の葉より小さくしっかりした厚みのある緑色の葉、冬に落葉しないので「常盤(ト切)ガキ」。2cm くらいの実をつけます。探してみます、美味しいのかな?...渋いそうです。少し休憩をとり水分補給をします。

11:33 「トサムラサキ」シソ科



低砲台入口で鮮やかな紫色の小さな実を見つけました。びっしりついた実はとても目立ちます。
以前はクマツヅラ科でしたが現在はシソ科に置かれ、環境省・広島県 RDB に指定されています。宮島では7月頃白い花を咲かせるのでシロバナトサムラサキの可能性もあるとか。
広島県では宮島でしか見ることができないといわれています。

11:54 ウォーキング(往路)



樹木が途切れた場所から小黒神島が見えました。キラキラ輝く水面の向こうに穏やかな瀬戸内の多島美です。所々で紅葉に見とれます。中でもハゼノキの真っ赤な葉は目を引きます。紅葉の仕組みについて説明。枝と葉の間に離層をつくり栄養を遮断し、葉は緑色から赤や黄また茶色に変化していき見事な秋の景色を作り出します。

12:42 集合写真



思い思いの場所で昼食をとります。木陰に入ると肌寒く、日向に出ると少し暑く感じられます。記念写真では、ちょこっとマスクを外しました。おしゃべりは控えて。

12:53 入浜池海水流入河口の説明



13:09 入浜池



13:09 入浜池



入浜池の保護活動の経緯、調査活動など説明後、周辺の自然観察です。

13:14 「シロダモ」 クスノキ科



黄色い花と赤い実を同時につけています。実は一年かけて熟します。

13:28 ウォーキング(復路)



14:23 閉会ミーティング



◇野鳥 (大西順子 会員)

包ヶ浦の人工池は小さくて車道にも近いが、カモ3種とカイツブリが、自然体で泳いでいました。人にも慣れていて、散策した芝生広場では、セグロセキレイやハクセキレイが、地上で採餌していて公園らしさを感じました。観察種は29種でした。

種 名	数	種 名	数
ヒドリガモ	40	シジュウカラ	3
コガモ	8	ヒヨドリ	20
オナガガモ	1	メジロ	12
カイツブリ	2	ウグイス	3
キジバト	5	エナガ	4
カワウ	2	シロハラ	1
アオサギ	1	ツグミ	1
セグロカモメ	1	ジョウビタキ	3
ミサゴ	4	スズメ	2
トビ	18	キセキレイ	1
ハイタカ	1	ハクセキレイ	6
コゲラ	4	セグロセキレイ	5
ハシボソガラス	3	カワラヒワ	3
ハシブトガラス	5	ソウシチョウ	2
ヤマガラ	4	計 29種	

筆者は最後まで皆さんと歩くことができませんでしたが、皆さん健脚ですね。また宮島には貴重な植物が多くあること、宮島の自然を保全・保護することなど学ぶことができた一日でした。

色々ご説明をいただいた山本会員に感謝いたします。

今年の行事はコロナにより、多くの活動を制限されました。

令和3年の干支は辛丑(かのとうし)、どんな年になるのでしょうか。行事が中止にならないように、また、一日も早くマスクのいらぬ普通の生活に戻れますようにと願うばかりです。

(文 : 舛田 写真 : 河野)

ミヤジマトンボ

生息湿地環境整備

日 時：11月20日(金) 9:30～15:30

場 所：ミヤジマトンボ生息湿地

天候：晴れ

参加者：森 以上1名

※全体では、ミヤジマトンボ保護管理
連絡協議会メンバー12名

当初の行事案内書では「少雨決行」とあり、週間天気予報では雨でしたので中止になるかなと思っていましたが、3日前に「雨天決行」の連絡が来ました。寒い雨の中でカッパを着ての作業になるかと気が重かったのですが、雨は前倒しとなり、晴天での作業となりました。

大野の丸石港の西の渡船場から宮島に渡り、三ヶ所での作業となりました。

一ヶ所目では、一部のメンバーが持参したミヤジマトンボの幼虫(ヤゴ)を放流する間(約30分)に、湿地と海とを結ぶ水路に溜まった砂の除去を行いました。

二ヶ所目で二班に分かれ、4名が三ヶ所目に徒歩で向かい、イノシシ防護柵の補修整備に当たりました。

二ヶ所目では、8名(森もこれに参加)が湿地と海を結ぶ水路に溜まった砂の除去に当たりましたが、水路約20mは砂が高さ1m近く堆積しており、本当にしんどい作業となりました。水路ができると湿地から水が海に流れ出し、しばらくすると潮が満ちてきて湿地は海水の逆流で水位が上がってきました。

三ヶ所目で作業していたメンバーが午後から二ヶ所目に戻って来て、イノシシ防護柵の補修整備をしましたが、資材不足で途中で終了し、日を改めて作業するとの事でした。

自然任せでは、湿地の環境は思うようにならず、近年の気候からすると毎年それなりに整備が必要かと思いました。また、メンバーの中の若い人はパワーがあり、良く働かれておりました。(若さはすごい!)

【二ヶ所目の作業前の状態】



【二ヶ所目の作業後の状態】



(文・写真：森)

臨時総会・会設立20周年 記念懇談会

PVの会では12月5日(土) 杉之浦市民センターにおいて、臨時総会を開催。「密」を避けるなど、コロナ対策禍の運営となりました。

1. PVの会 臨時総会・役員改選

日時：12月5日(土)

天候：晴れ

場 所：杉之浦市民センター

参加者：麻生 今田 岩崎 大林 奥田 恩田
金山 北野 河野 小林(勲) 小林(み)
佐渡 佐藤 末原 兎谷 中道 穂井田 増田
舛田 松尾 村上 元広 森 山本 横路
呼坂 以上26名 (委任状提出者を除く)
環境省：山崎自然保護官 大平AR

(1) 9:15 全体打ち合わせ

◇山崎自然保護官挨拶

コロナ禍で活動がなかなかできない現状ではありますが、状況に応じた活動を進めていただきたいと思います。

新人研修も何とか開催し、10名の新しい会員についても宜しくお願いします。

◇末原会長趣旨説明

会員の動向:39番山本章伸会員が12月1日に退会され、会員数41名です。

今年度はコロナ禍により不便な生活となり、半年間の休止後に活動を再開したものの、また拡大傾向がみられ、皆様も健康に気をつけてください。

11月5日に、本会の20年間の活動を廿日市市長に報告に行き、記念号を贈呈し、感謝と激励をいただきました。(他、宮島訪問税やエコツーリズムの動向について紹介。)

◇今年度の活動状況概要

各部長から活動状況の報告があり、特にどの部会もコロナ禍による活動の中止や今後の対応方針が示されました。

(2) 9:40 各部会打ち合わせ

- ・任期満了に伴う新幹事の選出
- ・次年度活動計画について意見交換・提案

部会打ち合わせでの幹事選出(敬称略)

- ・観察部会：[部会長]小林(勲)
北野、小林(勲) 中道、穂井田、舛田、村上、山本(昌)
- ・環境整備部会：[部会長]河野
河野、佐藤、末原、森
- ・広報部会：[部会長]岩崎
麻生、岩崎

(3) 11:30 臨時幹事会・臨時総会

臨時幹事会での新役員等選出の後、臨時総会を開催しました。

総会の出席者確認と総会の成立

出席者 25名、委任状提出者 11名、

(恩田欠席、佐藤出席) 合計 36名で全会員数 41名の半数以上であり、本会会則第5条第1項の規定により総会は成立。

※環境省広島事務所山崎保護官、大平ARも出席されました。

- ・新役員等 臨時幹事会通り成立
新役員(敬称略)

- ・会 長：末原
- ・副会長：岩崎、小林(勲)
- ・会 計：舛田
- ・監査員：森
- ・顧 問：村上

- ・各部会からの報告

◇環境省からのお知らせ

- ・大平AR自己紹介 2021.2月末迄です。
(3月から大高下AR復帰予定)

2. 設立 20 周年記念懇談会

場 所：杉之浦市民センター（2 階和室）

日 時：12 月 5 日(土) 12:30～13:50

参加者は午前中の総会出席会員（恩田欠席、佐藤出席）環境省 2 名

・20 周年記念特集号の冊子及び記念バッジの配布と懇談会を行いました。

（欠席者の方には、後日冊子及びバッジを郵送しました。）

平成 11 年(1999 年)7 月にボランティアの募集開始、研修等を重ねて、翌 12 年 6 月 3 日、宮島地区 PV の会が正式に発足。その後 20 周年の活動を記念して、総会後に、杉之浦市民センター 2 階の和室で午前中の出席者で懇談会が開催されました。

コロナ禍であり、「盛大に」と「ゲストを呼んで」とはいきませんでした。もみじ饅頭や飲み物が配られ、20 年前から活動続けている古株から、入って間もない方々が 1 人ずつ語りました。

皆さん、特集号の文章や写真を紹介しながら、活動について直接のことや裏話、活動の機会に宮島について考えるようになったことや、自分自身の心境や生活様式の変化等を述べられました。

短い時間・マスク等の対応の開催でしたが、話す方も聞く方も、雰囲気は盛会で、あっという間の貴重なひと時でした。

皆さんの話は盛りだくさんで、参加のいきさつ、活動の思い出、失敗談も多かったです。



集合写真



総会開会挨拶



(部会打合せ) 広報部会



全体総会



臨時総会



(部会打合せ) 観察部会



20周年記念特集号の冊子、記念バッジほか



(部会打合せ) 環境整備部会



懇談会

(文 : 松尾 写真 : 河野、麻生)

弥山登山道清掃作業

日時：12月12日（土）

天候：晴れ

行事推進委員：猪谷 三戸

参加者：今田 岩崎 河野 佐藤 末原 兎谷
穂井田 増田 三戸 森 以上10名

新規研修会員：上杉（裕） 上杉（幸）

種本 長村 福岡 村上（慎）以上6名



紅葉谷駅

9時宮島棧橋前広場集合

コロナ禍の中、マスクをしておの活動で、参加者全員が清掃用具をひとつずつ持って集合場所の棧橋前からロープウェー紅葉谷駅までひたすら歩く。獅子岩駅までのロープウェーの中も、密を避けるため定員いっぱいまで乗らず榎谷駅までは四人ずつ乗るよう係りの人から指示されました。

ロープウェーを乗り継ぎ獅子岩駅前の広場で会長及び環境整備部会長から清掃の作業手順と行程を聞き、各人が竹箒、熊手、スコップ等を持って二班に分かれて清掃開始。獅子岩駅から弥山頂上までの側溝の土を除き、登山道の落葉を掃きながら頂上を目指しました。

12時10分前には弥山頂上に着き、昼食を済ませて集合写真を撮りました。12時半から午後の作業開始。再び午前中の二班に分かれて里見茶屋跡まで清掃しながら下山しました。里見茶屋跡で解散後、それぞれ朝持ってきた清掃用具を所定の場所に戻し作業終了。清掃作業の途中、観光客・登山客のみなさんから「ありがとう」、「お疲れさま」の声に励まされ、汗とほこりにまみれながらも頑張ることができました。

神の島の清掃を終え、清々しい気持ちで島を後にすることができました。



榎谷駅



清掃作業①



清掃作業②



ウリハダカエデの実



清掃作業③



清掃作業⑤

(文：三戸 写真：河野)



集合写真

□環境省広島事務所 大平 AR 離任挨拶
皆様とPV活動という貴重な経験を
でき、この経験を活かして今後も頑張りま
す。短い間でしたが、ありがとうございました。

◇ 編集後記 ◇

新型コロナ禍で活動自粛の中、みせんは
中身の濃いものになりました。感謝！
次号は新人さんが加わるので楽しみです。
新人さん～広報部会に参加どうですか～

(麻生)



清掃作業④

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455